

1 釧路市中央図書館への資料収蔵について

進捗状況

- 令和3年7月に資料を収蔵済み。
令和4年2月1日より、一般向け配架を開始。
再生普及行動計画オフィスWEBサイトにおいて資料収蔵を告知。
令和4年2月に釧路市中央図書館主催の企画展を実施。

2 現地見学会の広報について

進捗状況

- 釧路湿原野生生物保護センターおよび温根内ビジターセンターにおいて、ポスター展を開催中。
再生普及行動計画オフィスWEBサイトに現地見学会ポスターおよび昨年度の実施状況を掲載。

検討事項

次年度の広報について
ポスター展の展示場所を更に増やすことや、動画を活用した広報について検討。

3 各小委員会発行のニュースレターを活用した情報発信について

進捗状況

- 各小委員会発行のニュースレター(時点最新版)をワンダグリンド・プロジェクト登録者に配布。
各小委員会別にファイリングしたニュースレターを釧路湿原野生生物保護センター展示室に配架。

検討事項

今後の活用方法について
図書館等への収蔵に関する宣伝、ビジターセンター等の主な施設への配架の追加について検討。

このような議論が行われました。(内容を要約または省略している部分があります。詳しくはホームページをご覧ください)

- 釧路市中央図書館への資料収蔵は、企画がスタートしたばかりのため、様子を見ながら他の図書館等への拡充も考えたい。動画資料に関しては、広報への活用も検討したい。
○ニュースレターをどこかで見られるようにすることはとても良いこと。しかし、欲しい情報がどのニュースレターに掲載されているのか検索するのが困難であるため、簡単な年表がニュースレターと一緒にあると良い。

再生普及小委員会の詳しい議事の内容および会議資料はホームページでご覧いただけます。

https://www.kushiro-wanda.com/kushiro-database01/再生普及小委員会
釧路湿原を楽しみ、学び、保全や再生に参加するためのガイド
みんなで進める! 釧路湿原の自然再生



第37回 再生普及小委員会 出席者名簿 (敬称略、五十音順)

- 個人 [11名]
君塚 孝一 [自然文化創舎]
坂井 一浩 [八千代エンジニアリング株式会社 北海道営業所]
貞國 利夫 [釧路市立博物館]
清水 信彦
新庄 久志 [釧路国際ウェットランドセンター技術委員長(環境ファシリテーター)]
高橋 忠一
照井 滋晴 [特定非営利活動法人 環境把握推進ネットワーク-PEG]
山本 太郎 [一般財団法人 北海道河川財団]
吉中 厚裕 [酪農学園大学]
渡部 哲史 [京都大学防災研究所]
渡邊 剛弘 [上智大学]
団体 [6団体]
釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会 [代表幹事/芳賀 孝朋]
釧路湿原国立公園連絡協議会 [事務局次長/元岡 直子]
公益財団法人 北海道環境財団 [環境事業課長/安保 芳久]
こどもエコクラブくしろ [近藤 一燈美]
特定非営利活動法人 EnVision環境保全事務所 [渡會 敏明]
特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ [井上 雅子]
関係行政機関 [4機関]
国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部 [治水課長/池田 共実]
環境省 釧路自然環境事務所 [国立公園企画官/松尾 浩司]
林野庁 北海道森林管理局 [釧路湿原森林ふれあい推進センター所長/南 達彦]
釧路市 [環境保全課 課長補佐 元岡 直子]

資料の公開方法
各委員会で使用した資料および議事要旨は、釧路湿原自然再生協議会ホームページで公開しています。
http://www.hkd.mlit.go.jp/ks/tisui/qgmend000003ppq.html
ご意見募集
釧路湿原自然再生協議会運営事務局では皆様のご意見を募集しています。
電話・FAXにて事務局までご連絡ください。
釧路湿原自然再生協議会運営事務局
[TEL] 0154-23-1353 [FAX] 0154-24-6839
※再生普及小委員会担当事務局:環境省釧路自然環境事務所
[TEL] 0154-32-7500 [FAX] 0154-32-7575

編集・発行: 釧路湿原自然再生協議会 運営事務局

令和4年2月4日(金)「第37回 再生普及小委員会」が開催されました。

開催概要

小委員会には個人11名、団体6団体、関係行政機関4機関が出席しました。完全オンライン(Zoom)として開催され、再生普及小委員会の活動報告及び湿原の保全や再生に係る情報の発信について議論が行われました。

再生普及小委員会は、自然再生事業全体をとおして市民参加や環境教育を進めていく取組みの立案や推進方策を協議する場として設置されており、「再生普及行動計画」に基づき、再生普及行動計画オフィス(環境省釧路自然環境事務所)が主体となって取組みを進めています。【構成員】74名(個人34名、25団体、関係行政機関10機関、オブザーバー5団体)



第37回 再生普及小委員会オンライン開催状況

再生普及小委員会の活動報告

前回の小委員会(令和3年2月)以降の取組みの報告が行われました。

年2回実施している再生普及小委員会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、予定していた今年度1回目の小委員会を取りやめとなりました。それに代わり、令和3年11月に、構成員への資料配布をもって中間報告としました。本ニュースレターは中間報告の内容も含まれます。

1 ワーキンググループ等の開催

自然再生の普及と環境教育・市民参加の促進のため、本小委員会とは別に2つの会合を開催し議論を行っています。以下の会議について概要が報告されました。

- 第13回 再生普及推進のための連携チーム会合 (構成員: 委員長、副委員長、協議会事務局等) 令和3年5月26日(水) オンライン(Zoom)参加11名
第14回 湿原学習のための学校支援ワーキンググループ (構成員: 委員長、教育委員会、学校教員等) 令和4年1月7日(金) オンライン(Zoom)参加15名
第13回 湿原学習のための学校支援ワーキンググループ (構成員: 委員長、教育委員会、学校教員等) 令和3年8月5日(木) 釧路地方合同庁舎 第5会議室 参加14名
第14回 再生普及推進のための連携チーム会合 (構成員: 委員長、副委員長、協議会事務局等) 令和4年1月21日(金) オンライン(Zoom)参加13名

2 情報発信の取組み

パネル展やイベントの開催、WEBサイト、ニュースレターの配信などを通して、自然再生事業やワンダグリンドの活動状況等を紹介しています。また、各小委員会が発行するニュースレターの配布も行っています。外部への情報公開を目的とし、各小委員会から資料の提供を受けています。それらを令和3年7月に釧路市中央図書館に収蔵し、令和4年2月からは一般向けの配架も開始しています。パネル展等の開催や図書館への資料収蔵、情報発信の取組みについて概要が報告されました。

パネル展の開催

- 釧路湿原自然再生事業パネル展 [期間: 令和2年7月16日(木)から] [場所: 釧路フィッシャーマンズワーフMOO]
○ビジターセンター展示「アイヌ民族と植物」 [期間: 令和3年8月12日(木)から令和3年10月25日(月)] [場所: 温根内ビジターセンター]
○釧路湿原自然再生事業現地見学会ポスター展 (1)[期間: 令和3年10月1日(金)から] [場所: 環境省 釧路湿原野生生物保護センター展示室] (2)[期間: 令和3年10月21日(木)から] [場所: 温根内ビジターセンター]
○釧路市生涯学習フェスティバル「まなトピア2021」 [期間: 令和3年11月6日(土)から令和3年11月7日(日)] [場所: 釧路市生涯学習センター「まなぼっと幣舞」]
○資料展「釧路湿原を再生するために 今、行われていること」 [期間: 令和4年2月1日(火)から令和4年3月24日(木)] [場所: 釧路市中央図書館5階フロア]



「まなトピア2021」展示の様子

■地域の図書館や博物館における資料の整備

各小委員会事務局から提供を受けた資料を取りまとめ、令和3年7月にそれらを釧路市中央図書館へ収蔵しました。令和4年2月からは、一般向けの配架も開始しています。

今後、釧路市中央図書館以外の、釧路湿原周辺の町村施設においても資料を閲覧できるように調整を進めていきます。



■各小委員会発行ニュースレターの活用

- 令和2年度分の各小委員会発行のニュースレターを取りまとめ、一部の対象者へ配布しました。
- 各小委員会発行のニュースレター(No.1～最新号まで)を釧路湿原野生生物保護センター展示室に配架しました。

■WEBサイトへの情報掲載とメールニュースの配信

- 再生普及小委員会HP:「みんなで進める!釧路湿原の自然再生」[URL]https://www.kushiro-wanda.com/
- 学校支援関係HP:「きづくわかる まもる 釧路湿原」[URL]https://www.kushiro-ee.jp/
- メールニュース:「ワンダグリンド☆ニュース」希望者に月2回配信

3 体験機会提供の取組み

■フィールドワークショップの実施

- 第27回フィールドワークショップ～釧路川の彼方、ひっそりとミズゴケ湿原に広がるスゲ草原への旅～  
[日時]令和3年10月29日(金)9:00～13:00 [場所]釧路町  
[案内人]新庄久志氏 [参加人数]9名



- 「第28回フィールドワークショップ～不凍の温根内川をたどって厳冬の赤沼へ～」は、令和4年2月17日に開催を予定していましたが、まん延防止等重点措置が北海道に適用されたため、中止となりました。

■市民講座の開催

～市民講座の様子が動画で紹介されました～  
令和3年度 市民講座  
「釧路湿原の「すごい!」を体験しよう」  
湿原の河川を歩く、湿原の魚類を観る!

昨年度に引き続き、令和3年8月、10月に開催された市民講座の様子が、再生普及小委員会出席者に動画で紹介されました。



4 市民との連携推進の取組み

■ワンダグリンド・プロジェクトの推進

釧路湿原の保全・再生に係る活動の輪を広げていく取組みで、平成17年度から行っています。事務局では、地域で行われている様々な活動や、それらに参加する人々を「釧路湿原の応援団」として紹介するとともに、参加者と連携した活動、支援を行っています。

本プロジェクト参加者(59団体・個人、連携校4校、広報支援8施設)や各事務局による現地見学会等の取組み、小委員会が実施したイベントに関わるアンケート結果等が報告されました。



このような議論が行われました。(内容を要約または省略している部分があります。詳しくはホームページをご覧ください)

- 現地見学会のアンケートでは、初参加の方も多くみられる。学生などの若い人の参加も見られ、自然再生事業の重要さが市民へ少しずつ浸透してきているのではないかと。
- 一方、依然年配の方の参加が多い傾向がある。若い方たちも更に参加しやすくなるような機会づくりを考えたい。
- 情報発信を行う際には、テレビやラジオ等のマスメディアも意識しながら発信していくことにより、目にも留まるのではないかと。
- 動画に関心を持つ人は多くいる。ほかにも、若い人の参加を促すようにオープンデータを用いたイベントを行うのも良いと思う。

●委員長 ○委員

5 湿原学習のための学校支援ワーキンググループの取組課題の推進(学校との連携・学習のサポート)

釧路湿原を題材とした学校での取組みを推進する目的から、平成27年より「湿原学習のための学校支援ワーキンググループ」を設置し、以下の取組課題の推進を目指して、学校と連携した取組みや研修講座、授業支援を行っています。



ワーキンググループのHPはこちら

取組課題1「湿原を題材とした学習素材の収集、活用の促進」

映像資料等のとりまとめ、  
連携校への提供

- 湿原を題材とした学習に取組む学校を主な対象として、映像資料や実物資料を取りまとめ、標茶小学校及び別保小学校へ提供。
- 作成した映像資料はホームページ上で公開し、今後も活用の促進を図る。



公開中の動画

オンライン教員研修講座  
報告ページの作成、活用の促進

オンライン教員研修講座「タンチョウレスキューの現場から(令和3年1月開催)」において使用した映像資料、講演録を掲載した報告ページを作成、公開。

取組課題2「自然再生の学校教育への活用促進」

達古武地区自然再生事業地の活用

- 達古武地区森林再生および達古武湖自然再生事業地にてフィールド学習を実施(対象:標茶小学校5年生50名)  
[内容]1)フィールドで出会う多様な事象の観察、森と湿原のつながりの学習  
2)児童の学習テーマを踏まえたフィールドでの活動



取組課題3「学校教員の関心喚起、湿原の教育的な価値の普及」

教員研修講座の実施

- 「環境教育の充実～地域とタンチョウとのつながり(釧路教育研究センター共催)」  
[日時]令和3年7月16日(金)9:00～12:45  
[場所]釧路市動物園  
[講師]飯間 裕子 氏(釧路市動物園 ツル担当獣医)



「体感!釧路湿原～植物群落と水の関係から湿原のしくみを学ぶ」

- [日時]令和4年1月7日(金)9:00～12:00  
[場所]釧路湿原右岸堤防沿いの湿原  
[講師]新庄 久志 氏(釧路国際ウェットランドセンター技術委員長)



釧路湿原流域環境を題材とした学びのプロセスの支援、実践等の発表の場作り

《フィールド学習のコーディネート》	《フィールド学習後のフォローアップ》	《発表会のコーディネート》	《釧路湿原サイエンスフェア》
・別保小学校5年生対象 ・中央小学校5年生対象 ・標茶小学校5年生対象 ・幌呂中学校1・2年生対象	・別保小学校5年生対象 児童の学習テーマ・担任教諭の要望を踏まえ、フィールドでの試料等の採集、映像資料の提供や、生徒の課題や疑問への助言等を実施。	・別保小学校5年生対象 ・中央小学校5年生対象 学校が行う発表会へ訪問し、発表に対する助言や質疑応答などを実施。今後、標茶小学校及び別保小学校においても実施予定。	学校外での発表会の企画として、研究ボードを学習に活用している学校よりボードの一部を借用し、5つの施設での展示を実施予定。

このような議論が行われました。(内容を要約または省略している部分があります。詳しくはホームページをご覧ください)

- 児童、生徒が自ら課題を見つけ、理論的に考え、調べ、まとめて、発表するといった、単なる発表会ではない形が今の教育には必要と思う。問題の発見から結論を出すまでの、一連の活動について支援が必要ではないかと。
- 学習発表会では授業の一環である学芸会と変わらない。アウトプットのひとつの形として、大人や観光客に向けて説明するような、大人との関わりやコミュニケーションを持つ場は、これまでにあったか。
- 鶴居村の中学校の生徒を湿原に連れて入るといった授業を行ったが、生徒たちが結果をまとめたポスターを使って授業のことをご両親に話したところ、ご両親は大変喜び鶴居村の自慢をされたとのことである。こうした活動を今後も実施したい。
- 昨年と今年はコロナの影響により、子どもたち自身が発表を行う場があまり無かったため、残念に思う。

●委員長 ○委員